

◆【海員随想】BISKRA号航海記(22)④ 新木繁雄

7月28日 フランス・セット(セテ)入港

昨日、アンカーチェーンコンプレッサーのワイヤーを5センチばかりたるませておいたら、夜のうちに振動でチェーンが緩んだのか、スムーズに自重で落ちた。おかげで船長から呼び出しをかけられずにすんだ。7時、セット沖アンカー。

10時にサンパン代わりに船のライフボートを降ろして上陸。エージェントへ行ったら、造船所からテレックスが入っていた。前回アピレスで取り付けた鉄片を取り除き、今回シンガポールで取り付けた鉄片の上に、さらに25ミリのスチール・プレートを取り付けるという。造船所の指示だから言う通りにするけど、あまり期待できる方法とは思えない。エージェントの話では、月曜日の朝から仕事にかかると言っていた。

帰りのボートが迎えに来るまで時間があつたので、マーケットをのぞいてみた。魚がものすごく高い。中くらいのサバが800円、25センチくらいの鯛がなんと3000円だ。

ここセットも、一年中で今が一番暑い時期なのだろうか。道を歩いている男の人は、上半身裸が多い。マーケット内は少し涼しかったが、普通の商店はどこも冷房はしていないようだ。

帰りのサンパンに、機関長の奥さんと子ども(ダニエラ)も乗って帰った。

夜10時、接岸開始。主機をトライしたら、前進はかかるが、後進がかからない。起動用コントロールエアパイプに空気漏れがある。幸いブリッジからの遠隔操縦では支障なく、どちらも起動できるから、ブリッジ操作に切り替えておいて、15センチほどの銅管を新換えた。

さらに悪いことに接岸中、マイクの調子が悪く「ブリッジからのオーダーは聞こえるが、船尾からのアンサーバックが聞こえない」と言ってきた。真っ暗な中では原因を見つけるのは困難だ。予備のマイクを船尾へ持って行って、急場をしのいだ。明るくなってから調べよう。

7月29日 フランス・セット

昨夜不調だったマイクを調べてみた。マイクを中心から出ている微細な線が切れていて、修理不能。次の日本まで、船尾にはブリッジの予備を使ってもらうしかない。エージェントの話では、今日修理工場の技師が、作業の打ち合わせに来るかもしれないというので、3時まで待ってみたが来なかった。

買い物をするつもりで上陸したが、日曜日はすべての店が閉まっていて、何も買えない。飲食店だけは開いている。一等航海士と武村が、道路にテーブルを出した店でアイスクリームを食べているのに出会った。私も同じ物を食べることにした。

3人でいったん船へ帰り、海水パンツに履き替えて海水浴に行くことにした。船から1キロほどの所に砂浜があり、たくさんの人が海へ入っていた。またそれ以上の人がビーチで甲羅干しをしている。その間を、ピーナツ売りが「スウー、スウー」と言いながら忙しく動き回っていた。多分ピーナツのようなスナックを売っているのだろう。

折りたたみ式のナイフを持って、水面下の岩で何かを探している人もいた。彼は時々採ったものを口に運ぶ。よく見ると2、3センチのアワビの形をしたトコブシだった。

船内食事が、入港と同時にアルジェリア風が変わり、夕食が日没後9時になった。腹が減ってかなわない。ラマダン明けまで、夕食は自分たちで作って、今まで通り7時に食べることにした。

「海員だより」